

令和2年度 事業報告書  
北いきいき市民活動センター

## 1. 市民活動活性化事業及び自主事業

### 【北いきセン秋祭り】

#### 事業の概要

- 1 開催日時：2020年11月14日（土）13時～16時
- 2 開催場所：北いきいき市民活動センター 全館
- 3 参加人数：100名
- 4 協力団体等：楽只児童館・スポーツチャンバラサークル・フラワーアレンジメントサークル月花・囲碁寿会・京都ライトハウス・放課後等デイサービスさんりん舎・千本盆踊り保存会・人形劇ファミリーひみちゃたい
- 5 予算：102403円

#### 1 事業内容

- ・いきセン利用団体による体験コーナーを設置し、参加者が体験を通して利用団体や体験活動に興味を持ち、利用団体と参加者が繋がる事が出来た。
- ・センター利用団体の発表の場を設け、参加者に楽しんでもらうと共に発表の機会を求める団体の達成感を促すことができた。
- ・地域の伝統である江州音頭と利用団体のパーカッションによるコラボイベントを通じて生まれ、地域と利用団体の交流が生まれた。
- ・コロナ禍で夏のお祭りが軒並み中止する中で、祭りの雰囲気味わってもらうことが出来た。

#### 2 準備段階での工夫

- ・近隣の佛教大学の学生さんに当日のスタッフを呼びかけ、当日の設営や進行、後片付けにも加わっていただき、大学との連携強化にもつながった。
- ・地域の高校生にもスタッフとして加わってもらうことができた。
- ・当センターの利用者だけでなく、近隣の施設にも出演の協力をいただくことができ、施設間の連携強化につながった。

#### 3 事業実施による効果・達成度

##### (1) 当初の事業効果、目標等

- ・様々な利用団体に協力していただくことで、団体間の関係の構築と活動の普及を図る。
- ・発表の機会が減少する中で、発表の機会を設け、団体の活動の意欲の向上や達成感を味わっていただく。
- ・地域の施設や団体にも協力していただくことで、地域と利用団体との関係の構築を図る。

##### (2) 事業実施による目標の達成度

- ・発表の機会が出来て、子供たちのモチベーションになってとても助かったという意見があった。
- ・新たな活動の発見や活動に興味を示すような姿が見られた。
- ・江州音頭が地域でなくなっていく中で、音頭を聞くことが出来て懐かしさを感じるという意見があった。

#### 4 今後の抱負

- ・コロナ禍で団体の活動の場がなくなっているという声が多くあり、コロナウィルスに影響されないようなイベントの形を模索していく必要がある。
- ・コロナ禍だからこそ、団体間の関係を構築し、強固にしていくことが必要である。



【事業名】 楽只アートワークショップ

事業の概要

- 1 開催日時：2021年3月26日（金）14時～15時30分
- 2 開催場所：高齢者ふれあいサロン
- 3 参加人数：35名
- 4 協力団体等：HAPS
- 5 予算：168597円

1 事業内容

- ・地域の各施設や HAPS、利用団体と連携を取りながら、新施設への移転に向けて作品を創り上げる。
- ・参加者全員で制作活動を通して、世代間交流の場を作る。
- ・切り紙を用いたモビール作りを HAPS のアーティスト（谷澤紗和子）と協力しながら作り、新施設への愛着を持ってもらう。

2 準備段階での工夫

- ・HAPS さんと何度も連絡を取りながら、お互いの方向性の調整や当日のスケジュールなどの調整を行った。
- ・佛敎大学の学生とともに当日の設営・運営を行った。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

- ・イベントを通じて利用団体や地域の人々の世代間交流による地域活性化を促す。
- ・市民の皆様が作った作品を新施設へ掲示・利用することで愛着をもって新施設を利用してもらう。
- ・アーティストという職について知ってもらう。

（2）事業実施による目標の達成度

- ・HAPS とコラボすることで、施設間の連携強化につながった。
- ・アーティストの仕事について紹介してもらうことで、子どもたちの将来の選択肢を増やすことが出来た。
- ・作品作りを通じて、複合施設への期待が高まった。

4 今後の抱負

- ・ふれあい共生館として再スタートになるので、ふれあい共生館に入る施設間の連携を図っていきたい。



## 2. 貸館事業

### 1 利用件数

(月別)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
61	0	317	360	367	337	419	390	350	275	316	465

(年間)

3657 件 (前年度比 80%)

### 2 利用状況

- ・新型コロナウイルスの感染拡大によって、センターの開館時間の減少や利用団体による活動自粛があり、昨年度に比べて利用数が減少した。
- ・感染拡大によって近隣の施設が閉館をしている中で、活動の場を求めて、当センターを訪れる利用団体さんも少なくなかった。
- ・現施設でのセンター利用を惜しむ声もあり、3月の利用数は、昨年度を大きく超えるものとなった。
- ・三密を避けるために、多目的ホールや集会室といった広い部屋の利用率が上昇した。

### 3 利用促進に向けた取組

- ・新施設にかかわる広報
- ・団体登録制の導入
- ・アルコールや非接触型の体温計などの設置

### 3. 情報発信等

#### 1 取組実績

##### ①ホームページ

センターの施設紹介や利用方法、主催行事の告知を掲載した。

主催イベントの様子を掲載した。

新施設に関わる情報の発信

##### ②Facebook

主催行事の案内や報告、新型コロナウイルスの感染拡大防止に関わる啓発。

##### ③チラシ、ポスターの作成

市民活動活性化事業等のチラシを作成し、京都市の各施設のほか、大学や飲食店等の周辺の施設に配架した。また、施設利用者に対しても受付時にチラシを配布した。

##### ④ラジオ出演・広報

昨年度の市民活動活性化事業で連携をした RADIO MIX KYOTO（北区コミュニティ FM）にて、市民活動活性化事業の広報を行った。

#### 2 取組の効果

- ・利用団体の新型コロナウイルスの感染拡大防止に対する意識の向上
- ・新施設の広報による新規利用団体の増加

#### 3 今後の抱負

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止に配慮したイベントの開催方法を模索する必要がある。
- ・高齢者の方は、オンライン参加が難しい方の割合が多いため、参加できる方法も考えていく必要がある。
- ・ふれあい共生館に入っている施設間の連携したイベントの開催。